

質問 2

スポーツ施設の充実を

—— 錦織選手はテニスにサッカー、野球も

**Q** 私は市教育委員会等のご協力を頂きながら、NPO組織を通じて「総合型地域スポーツクラブ」という「多目的」「多世代」「多嗜好」というニーズに対応するための、地域に根付いた住民主体のスポーツクラブの運営に携わっております。

市内にはいろいろなスポーツ施設がありますが、同じ体育館等で活動する屋内の種目に比べて接点の少ない、屋外種目のスポーツ関係者の交流を促すために、「多目的」に使用できる屋外施設をもっと増やすべきと考えます。また、屋外で行うスポーツ組織が活動の幅を広げられるよう「ナイター設備」の増設も必要です。市の体育施設の整備計画についてご説明ください。

の各中学校にも設置されております。現在、市では公共施設白書の作成を進めておりますので、市全体の公共施設の方向性を踏まえた上で、体育施設の整備を検討すべきものと考えています。 (社会教育部)

**【備考】** 日本の場合、子どもの頃からひとつのスポーツに専念することがほとんどですが、例えば、アメリカでは、季節ごとに野球をやったり、バスケットやアメフトを行うことのできるスポーツ環境が整っています。さまざまな種目を行うことで、身体能力が向上するという研究もあり、実際、今年全米オープンテニスで準優勝する活躍を見せた錦織圭選手は、子どもの頃、テニスのほかにサッカーと野球も習っていたそうです。

「春日部モデル」として、誰もがさまざまなスポーツを楽しめる環境を作りたい、というのが私の持論であり、このことを実現する要素として多目的で使えるスポーツ施設の拡充を要望しました。今回、執行部から具体的な答弁はありませんでしたが、今後も大好きなスポーツに関する提案を行っていきたいと考えています。



市内では少ない「多目的」利用可能な大沼公園グラウンド

**Q** 本年6月に改正電気事業法が成立し、2016年度より、電気の小売りが全面的に自由化されます。これにより、これまで企業や自治体など大口の顧客に限られていた「電力会社を選ぶ」という行為が、一般家庭におきましても出来るようになります。そこで、現在の本市の各施設の電力購入先を伺うとともに、小売り自由化について、市民への周知をどう考えているか、お聞かせください。

また、前回の定例会でも提案しましたように、自然エネルギー推進担当の職員を増員して新しいことに取り組むべきと考えますが、いかがでしょうか。

また、電力の小売り全面自由化に向けては、新制度の内容について、議員がおっしゃる通り、市民に向けて適切な情報の周知・広報を積極的に行うことが必要と考えております。 (環境経済部)

**A** 次年度の職員数の配分・配置については、業務量等に配慮し、各部長ヒアリング等を行った上で、適正且つ公平に決めて参りたいと考えております。 (総務部)

**A** 現在、市内の小中学校全37校では、新電力(PPS)特定規模電気事業者からの購入が行われており、市庁舎を含めた全施設の使用電力量の2割を占めています。それ以外は、東京電力からの購入

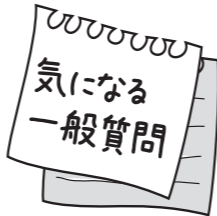
**【備考】** 既に、市内の全小中学校が新電力から電気を購入しているという事は、あまり知られていませんが、この新電力導入により、平成25年度分で約12パーセント、金額にして約1200万円の削減があったとことから、大きな効果です。また、電力の小売り自由化について、積極的に市民への周知をするとの答弁を引き出したのは収穫でした。

そして、私が執行部にしつこく言っている自然エネルギー推進担当の増員(現在は、環境経済部内に再生可能エネルギー担当課長がひとりいて、専任の部下はなし)については、総務部のヒアリングにおいて、環境経済部長が要望する方向のようなので、経過を注視していきたいと思っております。

質問 3

一般家庭も、電力会社を選べる

—— 市民への周知・広報を積極的に行う、と答弁



未来の大事業か、いまの不便解消か

春日部駅の東西交通問題

「鉄道高架で踏切ゼロの実現を!!」——いつの頃からか市役所の立体駐車場に掲げてある大きな横断幕。皆さんも一度は目にしたことがあるのではないのでしょうか。今議会でも、私と同会派の吉田剛議員がこの問題を取り上げ、「春日部駅構内の通り抜け」の施策を提案しました。

なぜ計画が進まないの??

「春日部駅付近連続立体交差事業」は、鉄道によって中心市街地が分断されている現状を打破するために、線路を高架して踏切をなくすことで東西



市役所の駐車場の横断幕

の往来を容易にし、まちを発展させようという事業で、いわば、「春日部の悲願」として長年にわたり市が実現を目指して取り組んでいる課題ですが、多くの市民がご存じのように、その計画は遅々として進んでいないのが現状です。計画が進まない一番の理由は、莫大な事業費(約550億円)にあります。この問題について市議会では、何十年先に実現するかわからない計画に固執するよりも、「駅の橋上化」や「東西自由通路」の建設等、現実的な選択肢を選ぶべきでは、といった提案をこれまで多くの議員が行ってきました。ちなみに橋上化の場合、10億

から20億円の費用があれば可能とのことで、最近では大袋駅で実施され、幸手駅も橋上化が決定しています。

駅構内の通り抜けができれば

吉田議員が提案した駅構内の通り抜けは、お年寄りや身体の不自由な方、妊婦、またベビーカー使用のお父さん・お母さんなど、地下道を通るのにも苦勞する方々に、市が駅構内を行き来できる通行証を発行するということです。これなら何億という多額の費用はかかりません。実際、奈良市が近鉄・大和西大寺駅においてこの事業を行っています。

現状では、市は連続立体交差事業という巨大事業を進める以外の施策は考えていないようですが、吉田議員の「いま困っている方の声を聞くべき」との言葉に、私は説得力を感じました。皆さんはいかがでしょうか。

被災地を訪ねて

岩手と宮城へ行政視察

所属する会派の行政視察で、岩手県奥州市と宮城県の南三陸町、登米市の3市を訪れました。中でも強烈な印象を受けたのは、東日本大震災で甚大な被害を受けた南三陸町でした。

南三陸町の復興、本音は…

同町では想定をはるかに超える15メートルの津波が町を襲い、800人近い方が犠牲となりました。元々、人口1万7千人ほどの小さな町ですが、ほとんどの町民が大切な家族や友人・知人などを亡くしています。そうした町が震災から3年を経て、どんな空気を放ち、そこに暮らす人々の表情はどうなのか、私はそれを知りたいと思っていました。

実際、復興状況などを説明してくださった町の職員の方々も、その多くがご家族を亡くされていたり、ご自身も九死に一生を得たような凄まじい経験をされていました。しかし、一見すると皆さんに暗さはなく、普通に笑顔で仕事をされていたので意外に思いました。



津波に襲われた町の防災対策庁舎

も心が癒されるわけではありませんが、私にははっとして、当たり前のことを言わせてしまったと大変後悔しました。

南三陸町はまだまだ復興が思うように進んでおらず、再開した小学校の校庭はまだまだ仮設住宅で埋め尽くされています。しかも、日本人はあの震災を忘れたがっているように感じることがあります。しかし、現場を訪れてみて、我々はその悲劇を決して忘れてはいけない、と改めて思いました。